

回転機の製造・艤装・整備・修理を展開

株式会社中島電機製作所/埼玉県戸田市

今回は発電装置や産業用電動機の回転機の心臓部である、固定子コイル、回転子コイルの絶縁技術や巻線技術にたけた「株式会社中島電機製作所」取材しました。代表者名は村田実・代表取締役社長。☎048-447-6960。本社及び本社工場の所在地は〒335-0022 埼玉県戸田市上戸田1丁目10-7。資本金2,000万円。従業員数20名。

明治41年（1908年）の創業以来、「中島モートル」の愛称で親しまれています。本社工場では、大手電機メーカーや大手産業機械メーカーの協力工場として、エレベーター・モーター、エレベーター制御盤、非常動力装置、自家発電装置、小容量交流発電機の製造・艤装・整備・修理まで一貫して取り組んでいます。中島電機製作所の取り組みを紹介します。

★創業の経緯★

東京生まれの中島勝五郎氏は明治41年（1908年）、個人商店として「中島電機製作所」を東京都文京区湯島天神町（当時）に創設しました。大正5年（1916年）、本社及び本社工場を東京都品川区南品川（当時）に移転。本社工場は、昭和4年（1929年）には通信省（当時）、昭和6年（1931年）には陸運省（当時）のそれぞれ指定工場となっており、生産したクレーン用モーターや発動発電機を納入していました。

中島勝五郎氏は事業の発展に伴い、個人商店から法人組織への移行を決めました。昭和10年（1935年）、「株式会社中島電機製作所」を創設し、初代の代表取締役社長に就任しました。また、昭和14年（1939年）、若年技能者・技術者に人材教育を実践するため、本社敷地内に「中島電機青年学校」を創設しました。

昭和39年（1964年）、第2代の代表取締役社長として村田広氏が就任しました。昭和44年（1969年）、村田広氏が社長を退任し、取締役会長に就任しました。それに伴い、第3代の代表取締役社長として明電舎OBの井上等氏が就任しました。

一方、昭和50年（1975年）、第4代の代表取締役社長として再び村田広氏が就任しました。しかしながら昭和52年（1977年）、村田広氏の逝去に伴い、第5代の代表取締役社長として広氏の長男の村田博文氏が就任しました。その後、平成元年（1989年）、第6代の代表取締役社長として博文氏の実弟である

村田実氏が就任しました。

平成16年（2004年）には生産施設が手狭になったため、南品川の本社及び本社工場を埼玉県戸田市の現在地に移転しました。平成17年（2005年）には現顧問の川瀬俊和氏が第7代の代表取締役社長に就任。平成20年（2008年）には現社長の村田実氏が第8代の代表取締役社長に就任し、現在に至っています。

★事業の変遷★

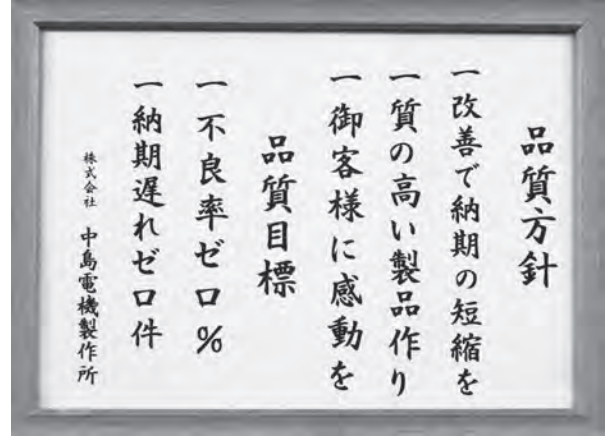
中島電機製作所では創業以来、主要事業であるモーター装置に加え、自家発電装置、非常動力装置の開発・生産・艤装・整備・修理に邁進してきました。戦後まもない昭和22年（1947年）、独自開発したエレベーター・モーターの生産、販売を再開しました。モーター製品の納入実績は着実な伸びを示し続け、昭和38年（1963年）には大型機専用工場を新たに竣工しました。

昭和49年（1974年）、アメリカのUSモーター・JCカーター社との間で、液化ガスポンプモーターの技術提携を締結しました。液化ガスポンプモーターとは、液化天然ガス、液化石油ガスなどの極低温の液体を輸送専用船舶から取り出す際に使用する装置。中島電機製作所では、取り出し作業中にLNG、LPGなどの可燃性ガスの漏洩が発生しないよう、LNGポンプ用、LPGポンプ用電動機の構造の改善を一段と推進していくこととしています。

一方、自家発電装置の分野については、中島電機



中島電機製作所の本社工場



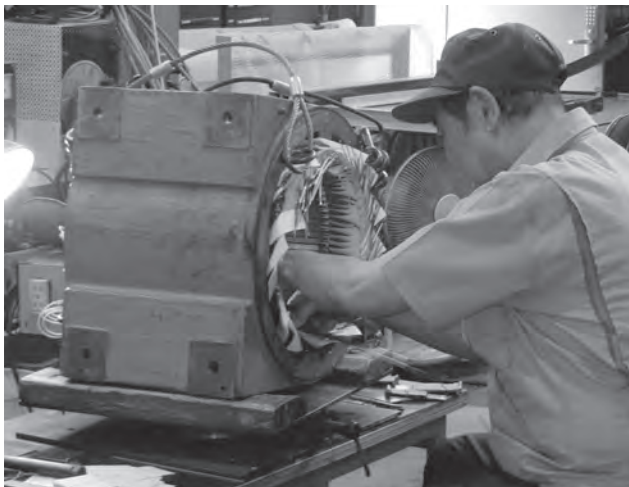
品質方針

- 一 改善で納期の短縮を
- 一 質の高い製品作り
- 一 御客様に感動を

品質目標

- 一 不良率ゼロ%
- 一 納期遅れゼロ件

株式会社 中島電機製作所



昇降機のモーター用固定子コイルの巻き替え修理作業



平角形電線の製作作業

製作所では昭和40年（1965年）、ディーゼルエンジン発電装置の生産を開始しました。昭和41年（1966年）、発電装置の需要拡大に対応するため、機械専用工場並びに社員寮の建屋を新たに竣工しました。

昭和44年（1969年）、ディーゼルエンジン（いすゞ製）、発電機（明電舎製）、制御盤（明電舎製）を最適に組み合わせた、容量45kVA～125kVAの移動電源車を独自開発しました。この移動電源車はその後4年間に渡って、明電舎向けに約3,000台余りがOEM供給され、電力会社向けに納入されました。

昭和45年（1970年）にはさらなる業務拡大を目指し、ディーゼルエンジン発電装置の組立専用工場を新たに竣工しました。

さらに、昭和53年（1978年）7月には正会員として内発協に入会。昭和63年（1988年）には内発協が運営していた自家発電設備認定委員会（当時）で、Sクラス（容量100kW以下）の防災用自家発電装置の認定を取得しました。引き続き、防災用自家発電装置で、平成3年（1991年）にはMクラス（容量500kW以下）、平成11年（1999年）にはLクラス（容量500kW超）の認定を取得しました。平成20年（2008年）からは非常用交流発電機の生産を開始しました。

★注力する事業分野★

中島電機製作所では、品質方針として、「改善で納期の短縮を」、「質の高い製品作り」、「御客様に感動を」の3点を掲げています。

また、品質目標として、「不良率ゼロ%」、「納期遅れゼロ件」の2点を掲げています。中島電機製作所の製品品質へのこだわりは、お客様からの同社製品に対する信頼の形になって表れています。

本社工場は現在、エレベーターパーキングや一般産業用クレーンを取り扱う国内大手産業機械メーカーや、非常動力装置や電源装置を取り扱う国内大手電機メーカーのそれぞれ指定工場となっています。

さらに平成21年（2009年）にはスイスのABB社の認可整備工場となっています。

引き続き、品質方針や品質目標を遵守し、中島電機製作所では、昇降機やポンプ設備、通風設備、非常動力設備に採用されている、「高効率モーター」の製造・艤装・整備・修理に取り組んでいくこととしています。また、発電装置や電動機用のモーターの余寿命を予測する、「絶縁特性診断」事業を展開するなどして、定期点検の推進に総力をあげて注力していくこととしています。